

写真：引き渡し式の様子

平成 26 年度対ギニア共和国草の根無償資金協力
「エボラ熱対策のための救急車 6 台供与計画」
及び西アフリカ諸国におけるエボラ熱対策のための二国間緊急無償資金協力

1. 救急車 6 台

岐阜市



箱根町



京都市



2. 到着物資の一部（防護具、医薬品）



Photo 1

3. スピーチの様子



(左から) 中野大使、サノ国際協力大臣

<中野大使スピーチ概要(抜粋)>

まず始めに、約38万米ドルの救急車6台の供与計画については、京都市、岐阜市、箱根町の各自治体のご厚意から供与があったものであり、日本外交協会によって車両は万全な状態に整備されている。これらの整備及び輸送にかかる費用は日本政府の支援によるもの。これらの救急車は、コナクリ市、フリア市、コヤ市の保健施設にて活用される予定であり、エボラ熱終息後も含めて、患者を適切で安全な状態で治療施設に搬送するのみならず、感染地域のカバー拡充にも貢献する。

これらの支援は、ギニア及び他感染国のエボラ熱対策に対する日本の追加的支援である。状況が再び懸念される現在、引き続き我々の努力が必要とされている。日本は昨年4月以来、様々な形でエボラ熱支援を実施してきているが、これは政府レベルに限らず、自治体レベルにおいても、アフリカ諸国、特にギニアへの連帯を示したいとして支援が行われている。全てのアクターの介入が結びつけば、エボラ熱を終息させることができるだろう。救急車及び物資がエボラ熱が終息した後も適切に使用されることを願う。

<サノ国際協力大臣(抜粋)>

本件はギニア政府の努力を支援していただくものであり、エボラ熱対策の効率の向上に貢献する。エボラ熱は、ギニアのみならず地域及び国際社会の懸念である。エボラ熱によって、当地において孤児や未亡人が増えているのが現状。今後も引き続きパートナー、特に日本と共にエボラ熱の弱体化に向けて努力を継続する。

日本のエボラ熱対策支援に関して、日本の支援はこのようにきちんと実体を伴う質の高いものである。また、当地にて治験が行われており結果が良好とされているアビガン錠も日本の薬である。日本政府のみならず、自治体そして日本国民の皆様から御支援いただいていることは大変ありがたく、ギニア政府を代表して日本に対する感謝の念をお伝えしたい。ギニア・日本の友好関係を心から誇りに思う。

現在の最大の課題はエボラ熱というより、住民の抵抗である。これは情報操作や洗脳が原因と思われるが、国民の皆さんには今一度、患者を隠すのではなく治療施設に送るべくご協力をお願いしたい。

4. 物資の引き渡し



救急車の鍵の引き渡し



(左から) 中野大使、サノ大臣、国立イニヤスディーン病院院長、キペ病院院長

5. 救急車の視察及び試乗



多くの出席者から救急車が新車のようにきれいできちんと整備されているとの評価を頂いた。





(左から) ギニア中央薬剤局職員、ケイタ調整官、国立イニヤスディーン病院院長、中野大使、キペ病院院長、国立ドンカ病院院長、サノ大臣、ギニア中央薬剤局局長



6. 物資の視察



(左から) キペ病院院長、バリー国内調整組織患者対応担当、国立ドンカ病院院長

7. インタビューの様子



サノ大臣及び中野大使は本件引き渡し式後、国営放送テレビ他プレスインタビューを受けたところ、サノ大臣よりは我が国のエボラ対策支援に対し改めて謝意を述べたのに対し、中野大使よりは、我が国の支援は一方通行ではなく、この支援に応じ、ギニア国民の皆様が一丸となりエボラ制圧に向け努力することが重要と述べおいた。

※写真のデータをお送りすることも可能ですので、お問い合わせください。